**子どもを見る眼**

**夏季大学　第３講座　資料**

**～自分のあたりまえを問い直す～**

**土田　　光子**

１　はじまりは自分を見つめることから

（１）あなたはどんな人ですか？

自分の樹をかいてみよう

**＜誰にも見せないことを前提に自分の樹を書いてみましょう＞**

**・まず、５つの項目ごとに枝を書き、その枝に葉っぱをつけるように、自分を説明する言葉を書いていきます。 枝（項目）は次の５つです。**

**①　あなたはどんな人？（自分の性格や自分の特徴、立場など）**

**②　どこで生まれてどこで育った？**

**③　どんな家族？（いっしょにくらしている家族や家のなかでの自分の立場）**

**④　あなたの好きなことは？（好きなことやもの　べつに得意でなくても良いので）**

**⑤　あなたが得意なことは？（得意なこと　好きでなくても良いので）**

（２）あなたはどんな人ですか？「自分の樹」 ふりかえり

①思いついたけど、書くのをやめた葉っぱはありますか？

（ある・ない）

★やめた理由

②「この樹を教室に掲示します。」と言われたら、書くのをやめる葉っぱはありますか？

 （ある・ない）

 　 ★やめる理由

③自分のことを話すとき、特に自分にとって大切なことが言いにくくなってしまうとしたら、それは、

クラスや周りがどんな状況にある場合ですか？

（３）こんな人には言えない

**あなたがとても悩んでいたとします。勉強の悩みでも、恋の悩みでも、クラブの悩みでもありません。もしかしたら、相談したってわかってもらえないかもしれません。とても 深刻な悩みなので、はやく誰かに相談したい。何とかして欲しい。そんなときどんな人に相談しますか？**

**①こんな人には言えない**

**次の９人を相談できない順にダイヤモンドランキングしてください。**

 **A：　うわさをすぐに信じて口が軽い人**

 **B：　暴言・差別発言が多い人。**

**C：　思いやりがない人**

 **D：　常にふざけている人**

**E： 自分にはあまり興味を示してくれない人**

**F： おとなしいけど、LINEとかで発言がひどい人**

**G： 全く話ししたことがないけど、あいつは良いやつだとみんなが言う人**

**H： 自分の話はするけど人の話を聞かない人**

**I： すぐ「大丈夫？」とか「かわいそう」って言う人**

**Ｊ： その他‥あなたなりの理由（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）**

|  |
| --- |
| **１**位 |

**ダイヤモンドランキング**

|  |  |
| --- | --- |
| 2位 | 2位 |
| ３位 | ３位 | ３位 | ３位 |
| ４位 | ４位 |
| ５位 |

②班で話し合ってランキングを完成させよう

②相談するならどんな人？

（４）あなたの願うクラス・学年ってどんな集団ですか？

**まず初めに「自分の樹」を書いてもらいました。そのときに、他の人には見られたくなくて書くのをやめた葉っぱがある人はいませんでしたか？自分自身が深刻に悩んでいても、自分にとって大切なことほど、まわりの人が理解できるか心配で、なかなか言いにくかったりします。「自分はこんなことに悩んでいる」「自分はこんな人間だ」と言い出せなくて、言うタイミングを逃している間に他の人からの心無い言葉に傷つけられた経験のある人もいるかもしれません。まわりの人の心無い行動や発言に傷つけられたり、嫌な思いをさせられたりした経験のある人もたくさんいるのではないでしょうか？人権学習で考えて欲しいのは、見えないところで傷つく人をつくらないために、どんなクラスや学年の集団をつくるか？です。考えたことを書いてください。**

２　自分はどのようにつくられてきたかをふりかえる

　「わたし」はどのようなメッセージを受け取りながら育ってきただろう？

※「〇〇」のなかに「部落」や「障害者」や「在日コリアン」や「性別」を入れて考えてみよう

（１）「○○の人は～であるべき」　　　「○○の人は普通～するものだ」

（２）「○○の人たち」は、愛情や怒りなどの感情を△△のように表現するものだ」

（３） ○○のお手本となる人は、△△のような外見や感情表現の仕方、振る舞い、態度、外見、価値

観をもつ人で、例えば、誰のような人物である

(4 ) 進学や就職、働き方、世の中に対する態度として「○○なんだから、こうしたほうがいい」

(5) ○○とそれ以外の人たちとの違いは、どんな事柄がある？

(6) ○○とそれ以外の人たちとの違いの背景には、どんな社会の仕組みや価値観がある？

３　つくられてきた自分をつくり直していくための人権学習

(１)　「つくられてきた自分」の自覚・刷り込みの恐ろしさを実感するところから

　多くの刷り込みを無自覚に受け取り、無批判にうのみにしてはこなかったか　→　脱学習へ

(２)　　まずは「差別の構造」を学ぶ

★よくある話から

「ＡがＢに『Ｃはイヤな子だから遊ばない方がいい』と告げると、理由も聞かず鵜呑みにしたＢはＤにその話

を回し、ＤはＥ、ＥはＦへと、が繰り返され、Ｃは知らないうちに孤立していく」

「Ｂの話を聞いたＤが、『Ｃのどんなところがイヤなの？』と尋ね、理由を知らなかったＢを連れＡに聞きに行

く.と『呼んだのに無視した』と言うので、直接Ｃに聞きに行くと、Ｃは『呼ばれたことに気づかなかった』とき

ょとんとしていた」

★話をこじれさせたものとは

・こじれ①　「無視した」という一方的な＜決めつけ＞＜思い込み＞

・こじれ②　「無視するからイヤな子だ」という、好き嫌いなどの評価が加わることで＜偏見＞へ

・こじれ③　「だから遊ばない方がいい」という＜排除＞がプラスされたとき、具体的な＜差別行為＞に

●こじれ番外編

・差別行為をエスカレートさせるのは事実確認もせず同調し話をひろげる＜うわさ＞

・うわさが広がれば、Ａは自分の怒りは正当なものだという思いを強め、同調している周りからも力をもらい、　罪悪感なく差別行為を行なえるようになる

・こじれ④　差別行為は放置すれば＜暴力＞を生む

・こじれ⑤　究極は＜スケープゴート、虐殺＞にまで至る

**★子どもたちの間に生じるこじれは、好き嫌いの評価が加わった段階ではなかなか修復できず、簡単に排除・**

**いじめ・差別につながっていく ⇒ 肝心なのは、決めつけの段階で解決できる力を育むこと**

★解決の手立てを見つける

・解 決①　まずは無視されたと感じたＡがＣに直接確認すれば、こじれる前に解決できる

（ただし誤解であれＡはＢに無視されたと思い込み傷ついていたのでこの行動はなかなか難しい）

・解 決②　自分は何一つ傷ついておらず冷静でいられたＢならできる

（Ｄのように、「なぜイヤな子だと思った？」と問い、「Ｃに確かめに行こう」と返せたはず）

・解 決③　差別の構造を知る人権学習

⇒子どもたちに今の自分の立ち位置を認識する力をつけ、生き方を考える学びを生み出す

「Ｃに確かめたの？」の一言 ⇒ Ｃを差別から、Ａが差別者になることから守る道だと気づく

⇒その学習が「まずはきちんと確かめよう」という合い言葉になって共有され、決めつけと思い込みから解放される人権文化を形成していく

⇒それは決して、「友だちのいいところを認め合おう」とか、「ケンカのないクラスを創ろう」などといった心

がけ教育からは獲得できない人権学力

⇒だからこそ、Ｃが本当に無視していたとしても、排除はしない関係が生まれる

無理に仲良くなることも好きになることも強要されないしＡがＣを嫌っても何の問題もない

⇒それでも、排除はしない　　なぜなら、それは差別だからだ

⇒子どもたちが人権学習で身に付けた人権学力が、授業づくりのベースとなる

４　思い込み・決めつけのベースにあるもの

（１）　思いつくものをできるだけたくさん出し合おう

（２）　それはどこにあるもの？

　①　地域　　保護者　そのほか　　…

　 ②　あなたのなかには？

（３）　それらを打破するために部落問題学習を中心に据えることの意味

①　カッコいいから

・差別に屈することなく立ち向かった個人の闘いで終わらず、さまざまな人と連帯し、世の中を変えたという闘いの成果とセットで語れるのは、現在のところ、闘いの歴史が長い部落問題が突出している

・憲法で保障されている基本的人権を守り実現するために、おかしいことはおかしいと言い、排除を跳ね返し、

世の中の制度を変えていった姿は、子どもたちに、困難な課題への立ちむかい方・生き方のヒントや勇気を

与えてくれ、カッコいい

② 差別の非合理性がわかりやすいから

・差別はある種の「違い」を根拠として特定の人々を排除するものであるが、住んでいる場所と職業と身分と

が一体だった江戸時代とは異なり、居住の自由があり、職業選択の自由が保障されている現代では、部落

差別にはそのようなはっきりとした「違い」は見当たらない

・それでも差別意識を払拭できずにいる現実を知った子どもたちは、差別のおかしさ・愚かしさを実感し率

直にあきれかえる …　「いつまで決めつけに縛られてるんや」　「まずはきちんと確かめろや」　「もういい加

減、偏見から自由になれよ」…ストンと落ちる

③ 差別の構造や心理が実感的に理解できるから

・部落問題学習は、差別の構造や心理が、聞き取り学習を通して具体的に理解できる

・「度重なる被差別体験が、自分のアイデンティティを負の立場だと認識させ、『差別に抗い闘う意欲』 ご

と奪っていく」 という事実として、差別を受けてもその場では言い返せなかった日々があったこと。そんな

日々を乗り越え、部落出身者であることを自ら名乗り、自分に自信をもって生きていけるように変えたもの

は、「学習と仲間と運動」であったこと。その一方で、被差別者から抵抗する気力を奪う差別の構造は、抑

圧する側の有利さ・無自覚な特権を補完し、ますます鈍感な加差別性を確立させていくことにつながって

いくこと。被差別体験者の語りはそんな「差別の心理的構造」を照らしだし可視化させてくれる

④ 自分の課題を重ねやすいから

・子どもたちもまた、自分のアイデンティティを負の立場だと認識し、そんな内なる決めつけに抗う力ごと奪われている何かしらを抱えて生きている

・「学習と運動」によって今は強くなったというその生き方を鏡に、「あの人で言えば部落差別　自分の場合

は家貧乏」「自分の場合は勉強ができんこと」「自分の場合は運動が苦手なこと」と自分ごとを重ねたとき、それをどのように乗り越えたかを知り、これが自分なんだと引き受けられるようになる

・自分を引き受けられるようになるための人権学習　　そこには教員自身も含まれる

⑤ 部落問題は新しい段階を迎えているから

・情報化の進展に伴う部落差別に関する状況の変化

・ネットには部落の誤った情報があふれ誰もが手軽にアクセスできる状況

・情報への対処方法を学ぶ緊急性があるなか成功例として動画削除に至る闘いも学べる

５　道徳教育とはどう違うのかを知っておこう

（１）　一枚の絵を見て考えてみよう

（２）人権課題は道徳では解決出来ない

**人権教育は社会の制度や権利について学び、構造的に問題を把握する力をつけ、社会の矛盾や不合**

**理をただしていく行動力を育む教育であり、思いやりや心がけだけで達成される世界ではない。**

６　教員が人権文化を身につけると子どもを見る眼が変わる

（１）教室の事実をどうとらえるか

①の事例　…　小テストで正解を確認もせず自分の答えの全てに○をしノートを閉じる子

　　中学校に入学間もない４月末の「朝の会」でのできごとです。

　　子どもたちは基礎基本の簡単な問題ばかりが５つ並んだ「朝の学習＝朝学」に、班で机をくっつけて、静

かに取り組んでいました。５分後、配られた解答を見ながら各自で答え合わせをしていると、メグは解答

など全く無視して、間違いだらけの朝学に黙って○をつけ、パタンとノートを閉じました。

　　二つの小学校から入学してきた子どもたちは、まだ出会って間もないにもかかわらず「それ間違っている

よ」と優しく声をかけるユカ。とたんにメグは「こいつカンニングや。人のノートのぞきよった」とわめき散ら

しました。つっぱりのメグを怖がることもなく優しく声をかけたユカは、目を点にしています。

**●あなたはメグのこの行動をどうとらえますか**

②の事例　…　明るく元気な担任が来たときだけ盛りあがる水泳大会での子どもたち

　　１学期末の水泳大会でのことです。Ａ先生のクラスは行事で常に優勝しますが、体育行事には不向きな

クラスで、水泳大会の個人種目ではパッとしませんでした。ところが、団結力を競い合う団体競技では驚

異的な点数を出し、結局またもや優勝をかっさらっていったのです。それなのにＡ先生のご機嫌は良くあ

りません。

　　そういえば、水泳大会が始まったとたん、他のクラスは大声で自分のクラスを応援していました。必死で

仲間の名前を叫び、そこかしこで拍手が起こり、力泳を終えて戻ってきた選手がハイタッチして着席する

光景があちらこちらで見られたのですが、確かにＡ先生のクラスでは、目立った動きはありませんでした。

　　着順判定係りだったＡ先生は、そんなクラスの様子にイライラしながら、なかなか自分のクラスにカツを入

れに行けませんでした。Ａ先生は、団体競技になってようやくクラス席に向かいました。さすがＡ先生！あっ

という間に子どもたちをまとめ、円陣を組ませ、まさしくＡ先生好みの、「イェーイ！」というノリで、遅ればせ

ながら大声の応援が始まりました。子どもたちの顔に笑顔が戻り、そして優勝したのです。

**●あなたはこのクラスをどんなクラスだと思いますか**

③の事例　…　勉強にしか興味のなかったリーダーが仲間を思う気持ちを班ノートに綴る

卒業前の３学期半ば。以前のカンタは、いわゆる『ガリ勉』で、自分の力を人のために使うことなど考えもし

なかった。しかしねばり強い集団づくりと、委員長としての自覚が、カンタは少しずつ変わってきた。そして、荒

れているジュンに迫っていけない自分の弱さを、班ノートに正直に綴ってきた。この文章を学級通信に掲載

したところ、ジュンがクラスから飛び出した。

|  |
| --- |
| 　最近、ずっと「仲間」って何やろうって考えてた。３年なって｢仲間｣っていうこと少しわかった気がすんねん。「仲間」って、階段から落ちた仲間を階段に戻すことなんちゃうやろかって。これから高校に行ったり、会社に行ったりして、ホンマにバラバラになる。だから、今までみたいに隣におることができんと思うねん。階段いっしょに登られへんようになる。それぞれの階段を登りはじめんねん。でも、階段からおちた時に、「仲間」がおんねん。今まで登ってきたところより低い段になるかもしれへんけど、絶対に階段に戻らせるってことが「つながり」じゃないかって思った。でも、オレにはまだそれができん。階段から落ちそうなヤツを本気で支えに行けてへん。本気でいったら失ってしまいそうで…。失うっていうのが絶対いややねん。でも、それができん自分は一番いやや。めっちゃ悔しい。これからホンマに友情壊してでも、友を止めなあかん時があると思うけど、自分は止めれるんやろかって。 |

**●あなたなら、この班ノートを使って学級通信を出しますか？**

**●あなたは、ジュンがなぜ教室を飛び出したのだと思いますか？**

④の事例　…　ある大学の人権教育の授業で書かれた振り返りカードをめぐっての紙上討論

|  |
| --- |
| 【花】私のバイト先(スーパー銭湯)にくるお客さんで、ニューハーフの方が割と高頻度で来ます。その方は毎回男風呂に入るのですが、顔や体つきは女の人なので他の男性の方からクレームが入ったりすることがあります。お店側としては断らないのですが、私的には正直に言うとわざわざ入りに来なくてもいいのになと思います。やはり好奇の目で見られることもあるだろうし、居心地が悪くないのかなと思います。もちろん、その人もこのような施設に行きたいと思うだろうし、入るのは自由だとは思うのでお店としても断れないのだと思いますが、他のお客さんのことも考えるとどうなんだろうと思います。【雪】花さんのコメントを読んで驚くと同時に「何を言っているんだ」という感想しか出てきませんでした。「好奇の目で見られることもあるだろうし、わざわざ入りに来なくてもいいのになと思います」と、明確な差別意識を持って書かれています。多くの人に不愉快な思いをさせるのだから大人しくしておけ、という同調圧力そのものではないでしょうか？あれだけ性的マイノリティに関する講義を受けてなお、まだこのように書かれるような方が教員になった時、子どもに対してどのような同調圧力をおかけになるのか見ものです。【桜】雪さんの花さんに対する返信。これはちょっと言い過ぎだと感じたのは私だけでしょうか。正しいことを言っているのに、この言い方はもったいないと思います。確かにその通りですが、差別のない社会・世の中を作りたいのであれば人への伝え方というのをもう少し考えた方がいいのではないかなと感じました。土田先生は顔もわかっている立場なので、差別の要素を含んでいる振り返りカードにあえてきつい言い方で返信をすることはわかるのですが、顔もわからないし同じ学生としての立場であれば、相手のことが自分の発言をどのように受け取るのかを想像して返信した方が、相手もその返信を受け入れてくれるのではないかと感じました。少なくとも私が花さんの立場であれば、あの返信はちゃんと読まないし心が痛くなります。花さんは当事者が好奇の眼で見られることを心配して、わざわざ自分の裸体をさらすような場には来ないほうがいいのではと思う自分の心情、相手のことを思いやる心遣いを素直に綴っただけで、そこに差別心はなく、何より直接相手にそう言っていないということがとても大切なポイントです。【福】他の人の振り返りカードなどで、何か感じたことに対して感情的になるのは、いいと思うのですが、それを直接的に個人に対して言う時には、言い方というものがあるのではないかと感じることが多々あります。きれいごとのつもりは一切ありません。それは間違っている！と主張したいときに、同じ内容のことを言うにしても、明らかに高圧的というか、見下すような言い方をされるとはじめから拒絶してしまう気がするし、本当に伝えたいことが見失われてしまうのではないかと思いました。言われた側の捉え方が変わってくると思います。少なからず、雪さんの振り返りカードを読んでいると、こんな言い方しなくてもいいのにとモヤモヤすることがあったので、言わせて頂きました。【椿】授業とは関係ないのだが…。雪さんのコメントを見て、他の人が書いた振り返りカードに対するコメントが肯定できる部分もあるのだが、辛辣すぎるのではないかと思うことがしばしばある |

**●あなたは、雪さんのコメントをどう思いますか？**

７　共生社会の担い手としての行動力をはぐくむ

（１）　自分を、周りを、地域を、社会を見る眼

たくさんの刷り込み・先入観が偏見を生み無批判にそれをうのみにしてきたことへの自覚

　　そんな自分を作り変えたいという意欲を引き出し支える力を持つもの　＝　「集団づくり」

　　平たんではないその歩みの中で、何度も間違い、葛藤し、逆行し、差別をしてしまう日も

それでも、「人は変われる」と信じ切る力を支える力を持つもの　＝　「水平社宣言」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　⇒　「人間を尊敬する事によって」　の　加差別からの解放

　　　寛容さを失った社会の中で、自己責任論・排除の論理の横行　新自由主義が闊歩している世界

（２）　何をどう変えていく必要があるのか

（３）　行動計画づくりから実践へ